

～ 5/25「未来への風景づくり見本園草刈りボランティア」を開催しました～

一般公募でお集まりいただいた源流人会会員さん、流域のみなさん、村民さん、元住民のみなさんと一緒に、当館で管理する見本園の草刈りと外来種植物の駆除などを行いました。

当日はよく晴れて、カンカン照りでした。こんな日に草刈りは大変です。白屋に日陰は少ないので、見本園では初期に侵入してきた在来種のアカメガシワやクワの木を意図的に少し残しておきました。これらの木は、あっという間に成長していく種類です。思わく通り大きくなった木々は木陰を作り、作業の合間にみなさんに涼しんでいただけました。当日観察した生き物も少し紹介します。ぜひ、みなさん、ご来村の折には探してみてください！！



見本園のクワの木の木陰でひと休み。



あちこちのオーナー企業団体区画地でも木が大きく成長して木陰をつくり始めています。



クワの実(通称:クワイチゴ)

食べたことがある人は「もう少し黒く熟さない」と甘くないよ！」食べたことがない人は「食べてみたい！」で、食べてみると「甘い！」という声も。



スイカズラ

つる性の植物で、石垣にからまっていて、花が咲いていました。漢字では「吸葛」。花の蜜がおいしくて、よく吸われたことに由来します。香りもとても良いです。

忍び寄る外来種の脅威



ニワウルシ (シンジュ)

ウルシの仲間ではなく、かぶれません。中国原産の落葉高木で、急激に増えてきました。成長が早く、自らの出す化学物質で他の植物の成長を阻害します。環境省指定の生態系被害防止外来種です。オーナー企業さんにも駆除のお手伝いをいただいています。

人の生活に寄り添ってきた植物



カキノキの葉

もともと植えられていた柿の木の葉が大きく成長していました。この時期の若葉はやわらかく、柿の葉寿司を包むのにも、香りを楽しむのにもちょうどよいです。アユ釣り解禁の6月初旬は、柿の葉寿司の‘旬’です。ぜひ、この時期にご賞味ください。



キムネクマバチ

大型ですが、おとなしいハチです。フジの花はほぼクマバチしか蜜を吸えない構造になっているので、クマバチは大好物なフジの蜜をひとり占めできます。そしてフジは、クマバチの来る確率を高めることで花粉を確実に届けてもらい、種がでやすくなるという蜜月関係にあります。



ハイゴケ

草刈りの跡にハイゴケの生育が見られるようになりました。その名の通り地面を‘はう’コケです。コケは背が低いので‘大きな’草が生えていると、生きられません。ハイゴケは、その中では草地に強い方ですが、当初は見られなかったもので、草刈りの効果の現れと考えています。